

研究テーマ 「『考え議論する』道徳への転換」

考える道徳の授業を通して、主体的に生きる深川っ子の育成  
～子どもたちの考えをつなぐ授業づくりを中心として～

広島市立深川小学校

はじめに 「考え、議論する」道徳科への転換

本校では、「考え、議論する」道徳科への転換に向け、「考える道徳の授業を通して、主体的に生きる深川っ子の育成」の主題のもと、3年計画で取り組んでいる。

1年次では、道徳の授業の基本について、主に内容項目の価値分析を中心に研究を進めた。「考え、議論する」ためには、本時で何を考えさせるのか、ねらいを明確にすることが必要であることから、低中高学年の道徳的価値の違いについて共通理解を図り、ねらいに迫るための中心発問や、考えを深めるための補助発問、繰り返し発問などの研究に全職員で取り組んだ。

2年次では、新学習指導要領にそって授業研究を進めた。登場人物の心情理解が中心の授業から、教材を通して、児童が新たな価値に気付く「考える道徳」へ転換する授業を目指し取り組んだ。3年次となる今年度は、ねらいとする道徳的価値に迫るために発問や板書の工夫を継続するとともに、児童から多様な考えを引き出すことができる展開の工夫、多様な考えをつなげていく場の設定等の工夫について取組を進めている。

1 研究内容

○「考える道徳の授業」の授業実践の研究

以下の2つの視点に沿って授業実践を積み重ねている。

〈視点1〉考える道徳になっていたか。（道徳的価値の自覚を深めるための発問になっていたか。）

〈視点2〉議論する道徳になっていたか。（児童の考えをつなぐ手立てが有効であったか。）

2 実践

○授業の実際

①道徳的価値の自覚を深めるための発問の工夫

5学年「言葉のおくりもの」 【 B 友情、信頼 】 ～2年次の取組から～

◎一郎はすみ子からの言葉のおくりものを聞いてどのようなことに気が付いたでしょう。

中心発問に対して多様な考えが出るので、そこから道徳的価値に迫るようつなげていくことが必要となる。そこで、児童の反応を予想し、補助発問や繰り返し発問を指導案に加えた。そうすることで、多様な考えが出たときに、ねらいとする道徳的価値がぶれないようにした。

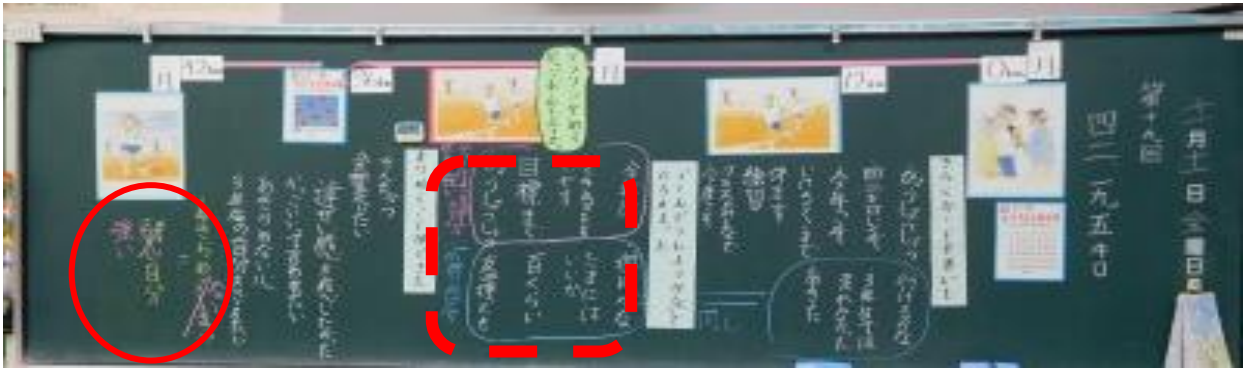


(補助発問)

- ・一郎は何を間違えていたのかな。
- ・何で男女仲良くしないといけないのかな。
- ・すみ子と一郎の違いって何だろう。

## ②児童の考えをつなぐ板書の工夫

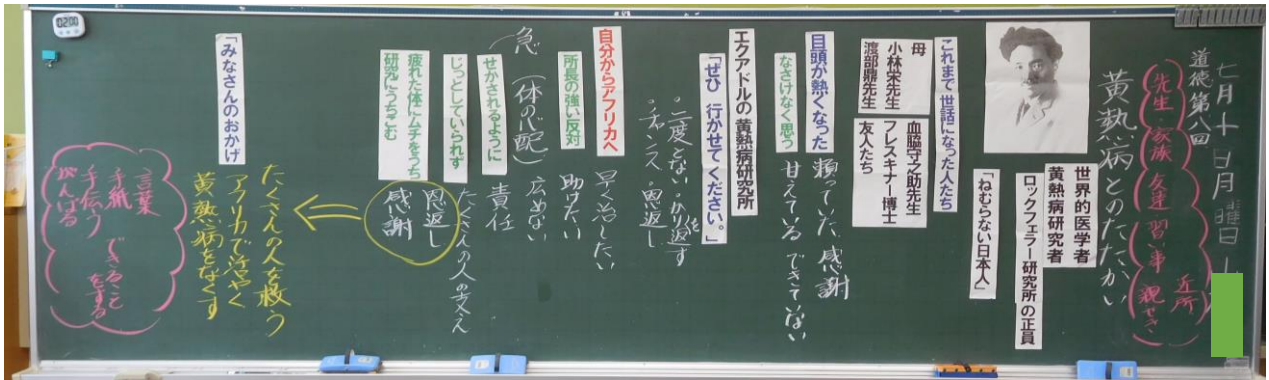
4学年「42. 195キロ」 【 A 希望と勇気、努力と強い意志 】 ～2年次の取組から～



多様な考えが出たときに、類型化して板書していった。登場人物の心情理解だけでなく、中心発問から道徳的価値に関わる赤丸の部分まで時間を確保し、考えを書いたり、友達の考えを聞いたりする時間を多くとった。

## ③児童の考えをつなぐ発問の工夫

5学年「黄熱病とのたたかい」 【 B 感謝 】 ～3年次 本年度の取組から～



・「関連はありますか?」「〇〇さんはこういう意見ですが、どうですか?」とつなぐ発問をすることで児童の考えが深まっていた。

・「エクアドルでもやっているんだよ。ここじゃだめなんですか。」と切り返した後、ペアトークや班での話し合いを行ったことでねらいとする感謝の道徳的価値に迫っていくことができた。

## 3 成果と課題

### (1) 成果

- ・中心発問までの基本発問を精選，構造的な板書計画のもと授業を進めていく。
- 児童が何について考えるのか明確になった。考える時間，発表の時間を確保できるようになってきた。
- ・事前研究会で学習指導要領の低中高学年のつながりを学年・ブロックで読み合わせをする。
- 本時で何を考えさせたいかねらいが明確になり，共有化できた。
- 児童からいろいろな意見が出ても，ねらいからぶれずに指導できるようになってきた。

### (2) 現状と課題

- ・児童の考えが繋がっていくためには，日々の教科等での継続した指導が必要となる。発表の仕方やペアトークなど各教科で指導していくことが課題である。また，ねらいに迫るためのペアトークの際の問い，場の設定も工夫していく。

## おわりに

今後も多様な価値観，考えに出会い，自己と向き合い，自らよりよく生きようとする児童の育成のため，「考え，議論する」道徳の時間の指導に向け，実践を積み重ねていきたい。